

居場所を失った人への
緊急活動応援助成

つながる・つなぐ当事者の力で
当事者の孤立を防ぐ居住支援事業





■ 概要

第8回助成事業

「つながりを失った当事者による主体的互助活動を基盤とした居住支援事業」によって得られた知見

当事者によるアウトリーチ

当事者自身が当事者に対してアウトリーチすることで、支援する側とされる側の境界線が薄れ、親近感がわきやすく、つながるきっかけとなることが多数ありました。やはり、当事者の訪問活動には、特別な意義と効果があると確信しました。

アウトリーチ対象者の課題解決

アウトリーチの対象者の課題を発見し、当事者が中心となって、地域包括支援センターや障害者相談支援事業所等につなぎ、サービスの利用が始まり、対象者の課題の解決に資することとなった事例がいくつも生まれました。

当事者による居場所の運営

居場所でのつながりは、役割を見出し、時には意思決定の基盤になりマスが、必ずメンバーが固定化していきます。そうした「常連」のいる居場所を大切にするとともに、常に新しい居場所づくりを仕掛けていく必要があると感じました。

■ 概要

第10回助成事業

「つながる・つなぐ当事者の力で当事者の孤立を防ぐ居住支援事業」

当事者によるアウトリーチの強化

アウトリーチ対象者の方々との「つながり」をさらに深め、より「つながる」を強化。アウトリーチ活動等に参加する当事者を中心に「つながる・つなぐミーティング」を定期的に実施し、情報共有をしました。

「つながる・つなぐ」スキルアップ講座の開催

主体的に活動する当事者自身の知識を深め、より多くの方に対して、「つなぐ」ことを提案できるよう、講座の開催を企画しました。また、他団体の活動の視察に行き、学びを得ることで、自分たちの活動に活かせるという「気づき」を得ることができました。

居場所サロン参加メンバーの固定化の解消にチャレンジ

当事者による訪問や、入居時の支援などを通じて知り合うことができた新しいメンバーを、積極的に居場所サロン「CoCoDe」に勧誘しました。また、女性の利用者の方々に声をかけ、女性だけのサロンの開催も試みました。



①当事者によるアウトリーチ訪問活動



月に1回、顔を合わせて少しお話を。

第8回の助成事業に引き続き、一度は住宅確保が困難な状況に陥ったことのある当事者が、ピアソーターとしてアウトリーチを実施しました。対象者が住む地域を8つに分けて、月に1回、2人1組で訪問しました。

中々会えないことも多いですが、何度も会っている対象者の中には、「毎月、話をするのが楽しみ」という方が何人もいらっしゃいました。そういった方々は家の中まで迎え入れてくれます。そこまでではなくても、玄関先で顔を合わせて、体調の良し悪しや、持病や病院の話、趣味の話などをするだけでも、訪問しているピアソーターも安心でき、嬉しい気持ちになり、さらに活

動の励みになります。普段ひとりで居ることが多い高齢の方は特に喜んでいただけます。また、訪問をきっかけにLINEを交換したり、コミュニケーションの幅を広げることで、孤独・孤立の防止に繋がっていると考えられます。



■不在時には、チラシをポストに入れます。訪問した翌月に、まだチラシが残っていた場合は事務局に連絡を入れていただきます。

熱中症にご注意！

今年の鹿児島市は平年を大きく上回る猛暑でした。高齢者の中には冷房を使用しない方もいらっしゃって、熱中症が大変心配です。6~9月は、熱中症対策として、スポーツドリンクや塩タブレットなどを訪問時に手渡しました。訪問しているピアソーターにとっても危険な暑さでしたので、常に水分補給を心がけて活動を続けました。

訪問時の報告は各自、スマートフォンで専用フォームに入力します。事務局の相談員とも共有し、対象者の生活や体調に大きな変化がないかを確認します。

2025/02/14 ○○ ○○

薬を飲んでいるせいなのかわかりませんが以前より元気ありません。

■共有されたフォーム



【月別訪問件数】

月	訪問件数	会えた件数	月	訪問件数	会えた件数
1	58件	16件	7	69件	29件
2	54件	18件	8	73件	31件
3	46件	19件	9	72件	33件
4	70件	23件	10	87件	36件
5	70件	33件	11	80件	31件
6	72件	27件	12	72件	27件



①当事者によるアウトリーチ訪問活動

事例①»»»

訪問で生活状況を知り、つながり
続けたことで福祉サービスへ。



呼吸器不全が重くなり、酸素吸入器をつけていないと息切れがひどく、日常生活(買い物やゴミ捨て、通院など)において、非常に辛い状況に陥っている方と、アウトリーチを通じてつながることができました。まだ高齢者ではないからか、これまでにはお一人でなんとか頑張ってゴミ出しや買い物などを行なっており、体調が悪い日は話すことさえ難しいといった状況でした。しかし、訪問したピアソーターが、「ゴミ出しても何でも、しんどいことは、遠慮なく言ってよ」とフレンドリーに声をかけ続け、徐々に支援を受け入れていただけるようになってきました。

お互い居住支援を受けた当事者同士であること
をきっかけに、世間話などを重ねて訪問のたび
に人間関係が構築されていった証だと思います。

〈段階的に継続する支援〉

- Step①: 安否確認・ゴミ出し・買い出し
- Step②: 車での通院支援(月1回)
- Step③: ICT機器の設置
- Step④: 福祉サービスへのつなぎ
- Step⑤: ケアマネ・訪問看護・ヘルパーとの連携
- Step⑥: 保護課担当者との間に引き越し許可
- Step⑦: 1階が空いている物件への入居手配

今後もピアソーターたちの支援はずっと続いていきます。



■自宅にて担当者会議

事例②»»»

地域包括支援センターから、
孤立している高齢者の訪問依頼。



ピアソーターは、65歳以上の高齢者に介護サービスが必要だと感じた時は、まず地域包括支援センターに連絡を入れ、手続き等に立ち会い、介護サービスが始まってからも、キーパーソンとしてつながり続けます。そんなピアソーターの活動が地域包括支援センターで、認知が広がり、やどかり利用者ではないですが、地域の孤立している高齢者を月に1度だけでも訪問してつながっていただけないかと、依頼がきました。これまでになかったことですが、地域に住もう方の役に立てるならと、月1回のアウトリーチのエリア内であったことからも、承諾して会

いに行きました。お話しすると、ご本人はつながることを拒絶することもなく、受け入れていただき、訪問が始まりました。認知症が少し進行しており、金銭管理ができず食事があまり摂れていないようでした。社会福祉協議会の金銭管理が始まるまでの間、関連団体の活動の、河川敷で行われる炊き出しに行くなどを提案しましたが、場所がわからないとのことで、ピアソーターが取りに行って届けるということもありました。その後、金銭管理が始まり、宅配弁当などで、ある程度食事を取れるようになりました。ある時は訪問時に不在で、ベランダから覗くとカセットコンロに火がついたままという危険な状況もありましたが、ご本人が帰ってきて事なきを得たということもありました。複数団体による連携した支援が大切だと感じた事例でした。



■連絡を入れて駆けつけた地域包括支援センターの職員



②「つながる・つなぐ」ミーティング



月に2回のミーティングで、スケジュール管理と訪問対象者の情報共有。

月の1週目には、8つのエリアの訪問先リストをもとに、いつ誰がどのエリアをまわるかを確認し、スケジュールを決めます。

3週目には、前半訪問した先で、気にかけておくべき対象の方の話や、「初めて家にあげてもらつた」などの訪問時の話を共有します。また、新しく入居支援などをした方で、ピアソポーターになってもらつてはどうかなども、このミーティングで話し合います。

4月～12月で全15回行いました。ミーティングが習慣化されてくると、議題も、自由に出し合うようになり、さらにはエリアでまわるのではなく、気にかけておくべき対象者にアポイントを

取って個別で訪問した方がいいのではという意見も出て、実際に数名は個別で訪問することになりました。

【訪問対象件数】

1	唐湊エリア	43件	合計 98件 うち 個別訪問 7件
2	谷山エリア	4件	
3	郡元エリア	12件	
4	鴨池エリア	6件	
5	三和・真砂エリア	4件	
6	荒田エリア	11件	
7	甲突エリア	6件	
8	武・城西エリア	12件	

第13回 つながる・つなぐミーティング

①つながる・つなぐスキルアップ講座

12月5日(金)ボランティア講座9:30～11:30
鹿児島市役所本庁本館2F講堂
参加者:〇〇・〇〇・〇〇・〇〇

12月19日(金)しょうぶ学園 見学
参加者:〇〇・〇〇・〇〇・〇〇・〇〇・〇〇・〇〇

②アウトリーチ(訪問)スケジュール

- ・三和／真砂エリア… 11月4日(火)〇〇・〇〇
- ・鴨池エリア… 11月10日(月)〇〇・〇〇
- ・郡元エリア… 11月6日(木)〇〇・〇〇
- ・唐湊エリア… 11月18日(火)〇〇・〇〇
- ・甲突エリア… 11月19日(水)〇〇・〇〇
- ・荒田エリア… 11月20日(木)〇〇・〇〇
- ・武／城西エリア… 11月22日(土)〇〇・〇〇

〈個別訪問〉

- ・〇〇〇〇(谷山)… 11月21日(金)〇〇・〇〇
- ・〇〇〇〇・〇〇〇〇・〇〇〇〇(宇宿)… 11月25日(火)
〇〇・〇〇
- ・〇〇〇〇(和田)… 11月13日(木)〇〇・〇〇(通院支援)
- ・〇〇〇〇(谷山)… 11月29日(土)〇〇・〇〇

③個別対応 共有

- ・〇〇〇〇さん 入院中(〇〇病院):退院後は週3回透析
- ・〇〇〇〇さん 金銭管理スタート
- ・〈引越し支援〉11/7〇〇〇〇さん
〇〇ビル → 〇〇マンション(武2-00-00-101)
- ・〈引越し支援〉11/10〇〇〇〇さん
〇〇シェルター → 〇〇マンション(武2-00-00-101)

■11月4日 第13回 議事録より抜粋

安否確認LINEグループ「ヒトコエ」 参加者を勧誘。

昨年度から始めた、毎日の安否確認のためのLINEグループに参加していただけそうな利用者を増やしていくこうと、ミーティングで候補者を挙げ、積極的に勧誘してきました。アウトリーチを続けてきたことで、利用者の安否確認の必要性や、LINEを使えるかどうかなどを、理解しているからこそできた活動だといえます。LINEを使えない高齢者の方でも、使い方を教えるながら参加者を増やしていくこうと思います。



- グループ数… 6グループ
 - のべ参加人数… 18名
 - 実質参加人数… 15名
 - 平均年齢… 53.5歳
 - 最高齢… 66歳
- (2025年12月末現在)



③「つながる・つなぐ」スキルアップ講座

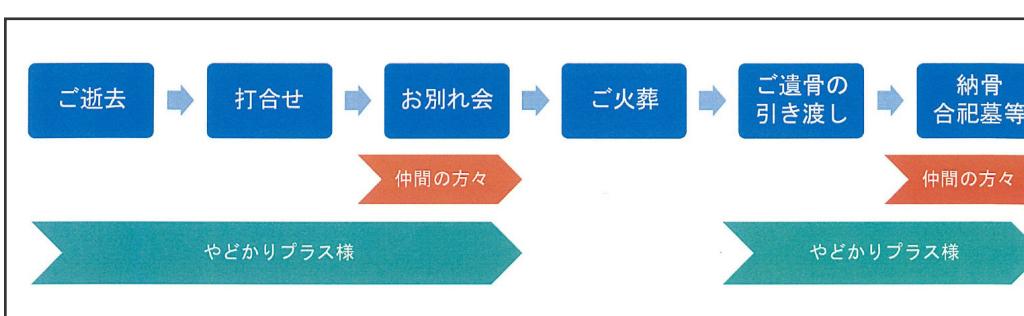
第1回 2025/8/12

葬送支援に関して



つながるあんしん事業でご協力いただいている株式会社IP-STYLE 立和名壱政氏・北市龍之介氏による「葬送支援に関して」の講義を受けました。事業参加者が亡くなった時に、その後どういった流れで納骨まで至るのか、やどかりプラスとしての役割や、なかまとしての役割をご説明いただきました。これまで、つながるあんしん事業参加者がお亡くなりになり、お別れ会や火葬・納骨など、なかまとして送り出した経験のあるピアサポーターのメンバーも数名参加し、当時の思いなどを振り返ったり、自分ごととして捉えて、今後の活動にどう活かしていくのかを

考えさせられました。まだなかまを送り出す経験をしていないピアサポーターにとっても理解を深め、必ず訪れる未来をイメージすることができたと思います。
講義後は、活発な質疑応答、なかまを送り出す心境など多く話し合いました。



■資料より一部抜粋

第2回 2025/8/29

NAGAYA TOWER 視察



「ちょっとかわった賃貸住宅」として鹿児島市の中心に位置する「NAGAYA TOWER」に視察にうかがいました。その名の通り、昔ながらの長屋をそのまま縦(タワー)にしたような住人参加型をコンセプトとした建物です。2階は「みんなのLDK」と称し、様々なイベントが開催されたり、作った料理をシェアしておしゃべりを楽しんだりできる共有スペースがあり、3階～6階は1人住まいから2人住まいに対応した4タイプの間取りで計38世帯が住まう賃貸マンションとなっています。建物の構造自体も独特で、広い中庭を囲うようにコの字に玄関ドアが並び、部屋

を出た時に全方向の住人と顔を合わせができるようになりたり、ベランダに仕切りがなく、いつでもお隣のベランダに行けたりと、とにかくコミュニケーションを重視した工夫がなされていました。
そこで共に暮らす方々は、人と人の温かつながりをもって、見守りあって暮らしているとのことで、大変共感を持つとともに、どういった見守り方をしているのか、どういった支援のつながりが起きているのかを、興味深くお話をうかがうことができました。



③「つながる・つなぐ」スキルアップ講座

第3回 2025/9/3

やどかりプラスの活動 勉強会



生活相談・支援事業、入居支援事業、交流事業、広報・啓発事業と幅広く活動されている認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいの職員8名の方々が、視察にいらっしゃいました。ピアセンターも参加し、一緒に芝田理事長の講義を受け、あらためて自分たちが参加する「やどかりプラス」の活動の意義と価値を学びました。もやいの職員の方々からのたくさんの質問にピアセンターたちは活動に対する想いや、これまで経験してきたことなど、価値のある意見を発表しました。普段関わることがない、東京で活動する団体との意見交換では、自分の言葉で話す

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい



第4回 2025/9/10

福祉サービスについて



ことによって「気づき」が生まれ、他団体の活動に対する質問を投げかけ、お互いを知ることで知識を深め、とても学びの多い時間となりました。今回は特に「葬送」についての活動を中心でしたので、勉強会の後、納骨堂の合祀墓の見学にも行きました。そこでも多くの質疑応答が飛び交い、貴重な体験ができた一日となりました。後日、もやいの広報誌で、この日のことが掲載され、やどかりプラスが展開する従来の家族觀にとらわれない、新しい互助の形について取り上げられていました。

福祉相談支援センター・パラソルの代表で相談支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士の新川昇一郎氏による「福祉サービスについて」の講義を受講しました。まったく専門知識のないピアセンターでも、最低限の制度の知識を得ているだけで対応が大きく変わり、利用者の方々にとって、何が必要なのか見極める指標にもなるので、とても重要な内容でした。

今回のピアセンターたちの大きな学びは「つなぎ」のポイント。全部の知識を詰め込むのではなく「つなぎ先を知っていること」が大切だといいます。普段から同じ利用者と関わることが多い

福祉相談支援センター・パラソル



新川氏の講義ということもあって、具体的に「○○さんについて」といった事例をもとにした話題も出て、理解を深めやすい講義となりました。こうした知識を持っておくことで、病院受診に同行した際に、病状をご本人と一緒に聞く機会が多いピアセンターは、訪問看護などの医療サービスを受けるために、相談支援専門員にならることができます。現実的で、すぐに活用できる知識を得ることができました。



③「つながる・つなぐ」スキルアップ講座

第5回 2025/12/5

鹿児島市みんサポ応援講座



鹿児島市 長寿あんしん相談センター



鹿児島市の地域包括である長寿あんしん相談センター主催の「みんサポ応援講座」を受講しました。鹿児島市の高齢者及び介護保険の状況や、地域包括ケアシステムについてなどの講義があり、その後「高齢者との接し方」として、身体とこころの老化への理解、認知症の症状とその対応のポイントなどを学びました。実際、普段から接している方々を想像しながら、これはと気付かされることも多々あり、互助が基盤であることを理解しているピアソーターは、あらためて支援する側のプロになる必要はなく、従来の家族機能の代替となり、専門の方々と一緒にそれ

ぞのサポートを連携して継続していくことが重要だと思いました。最後に鹿児島市の宮之浦地区の「宮たすけ隊」という団体の事例発表がありました。そこでは地域支援と公民館活性化を掲げ、通院、買い物、草払いなど地域に根差した活動により、公民館を中心に顔の見える集落づくりに取り組んでいました。やどかりの利用者たちは他県出身の方が多く、このような地域との関わりあいがほぼ無い状態で暮らしています。地域を思う気持ちには差がありますが、コミュニティの中で、生き生き暮らしていくためのヒントがここにあるように感じました。

第6回 2025/12/19

しょうぶ学園 見学会



社会福祉法人 太陽会 障害者支援センター SHOBU STYLE



「しょうぶ学園」は1973年の開設から52年という歴史ある施設で、「つくりだすくらし」として障がい者支援事業の工房しょうぶでは布、木、土、和紙、絵画造形、食などの工房を多彩なプログラムとして展開されています。「ささえあうくらし」としての地域生活支援センター、「つながりあうくらし」としてギャラリーやショップなど、ひと、もの、こころのつながりの輪を広げる集いの場を提供されています。
どこを見ても驚きと感銘を受けました。
やどかりでは当事者を主体とした活動を展開しておりますが、何か新しいことを目指したいと

いう意欲が湧いてきて、ピアソーターの皆さんそれぞれの意見が次々と飛び交いました。一朝一夕では難しいことは理解していますが、そういったアイデアを形にできたら当事者主体のコミュニティはますます強いつながりになっていくのだろうと感じました。施設の見学の後、質疑応答の時間も設けていただき、これまでのお話や、今後の展望などをうかがったり、驚きと発見の連続で、大変学びの多い時間をいただきました。



④居場所サロン「CoCoDe」



■CoCoDe案内チラシ

毎週火曜日、馴染みのメンバーも、新しい参加者もワイワイ。視察・見学・取材も来てくださいました。

〈利用者の声〉

【常連のAさん(66)】

ここに自転車で来ることが運動にもなるし、スマホのこととか、わからないことがあってもCoCoDeに来て若い連中に聞けるのがいい。ワイワイしている雰囲気もたまになら疲れない。

【新規参加者のBさん(48)】

シェルター入居時から、ピアソーターさんが部屋に来てくれて、引越しも手伝ってもらい、CoCoDeにも誘われるがままに参加しました。普段ずっと一人なので、週に1回くらいは人と話すことが大事だと思い通っています。

【CoCoDe参加者数】

月	回数	のべ人数	新規
月	回数	のべ人数	新規
1	4回	33人	0人
7	5回	30人	0人
2	4回	30人	0人
8	4回	36人	1人
3	4回	31人	0人
9	5回	41人	2人
4	4回	32人	4人
10	4回	33人	1人
5	4回	31人	0人
11	4回	34人	2人
6	4回	30人	0人
12	4回	28人	2人

新規が増え、来なくなる方もおり、人数に大きな変化はないが、メンバーは循環している。



④居場所サロン「CoCoDe」



何を作るかあれやこれや、ここから始まる料理会。やっぱり人気はカレーライス。

「今回の料理会は何を作る？」「カレー！」「チャーハン！」「オムライス！」といった声が居場所サロン「CoCoDe」で響き始めて、料理会が開催されます。毎回いつもと違うものを作ろうという意見が出ますが、結局定番メニューで落ち着きます。普段のCoCoDeに参加していないメンバーも料理会だけは来るという方もいらっしゃいます。「久しぶり！元気してた？」と会話を交わし、みんなで料理会を楽しみます。CoCoDeのコミュニティには欠かせないイベントとして定着してきました。年に数回なので、新規の方や、前に参加していたけど最近見かけない人などに、声をかけやすくなります。そして

つながり続けていく重要な役割を担っているといえます。普段から一人で食事を摂ることしかないので、料理をする人もそうでない人も、とにかく集まって人と話しながら食事をするということが、大切だと思います。



【CoCoDeクッキング参加者数】

開催日	参加人数	メニュー
4/29	16人	カレーライス・スープ・サラダ
7/1	13人	そうめん・唐揚げ
8/27	8人	お好み焼き・ご飯
10/23	10人	カレーライス・スープ
12/28	21人	そば・唐揚げ

12/28は年内最後の日曜日ということで人が集まりやすいタイミングだったのか、これまでで一番多く集まりました。唐揚げは鶏肉10kg分！しっかり完食しました。

■CoCoDeクッキング案内チラシ



⑤つながるあんしん事業



つながるファイルを書く会は、月に2回、2ヶ所で開催。

毎月第2金曜日は10:00～下荒田地区、第4金曜日は14:00～唐湊地区にて開催しています。2ヶ所開催にして以降、参加メンバーに変化が現れ、結果的に参加者が増えることになりました。

40代、50代のピアソポーターはなまを失った経験があることから、特に意識が高まり、積極的に参加するようになりました。

また、やどかりの利用者ではない方にも、興味を持っていただき、事業の概要を聞くために参加いただきました。今後、互助ベースの支えあいがいろんなところで始まることが期待できます。そして、この1年で2人のなまを送り出しました。入退院を繰り返しながら終末期になって、昔

別れた娘さんと再会することができ、遺骨も遺族に引き渡されました。ご本人も喜んでいると想い、笑顔で送り出すことができました。もう一人の方は長期入院で、そのまま病院で逝去され、お別れ会の後、合祀墓へと納骨されました。



⑥女性サロン・高齢者サロン



初の女性サロンを開催。

なかなか集めることができなかった女性サロンを開催しました。やどかり利用者の女性32人にチラシを配ったところ、3人の方が参加されました。美味しいチョコレートとお茶の話から始まり、自己紹介をしました。25歳から73歳と幅広い世代間でしたがアニメの話で意気投合し、盛り上りました。



高齢者の会食とともに。

高齢者サロンを企画しても、なかなか集まっていただけではなく、どうにかしないと考えていましたが、65歳以上の方限定で、集まってお弁当を食べる「愛のふれあい会食」という鹿児島市の事業に、ボランティア枠で参加させていただきました。いろんなお話をしながら、昼食とその後のお茶の時間をともにしました。月に1回しか顔を合わせませんが、慣れてくると何でも相談してくれるようになってきて、少しずつ関係性が構築されてきたように感じます。もっとたくさんの方に参加していただけるよう、協力団体とも連携していくなら、皆さんにとって良いコミュニティにしていくと感じました。